

<p><b>【本校の学校教育目標】</b>                  社会力を身に付けた児童の育成                  「気付き・考え・実行する」熊っ子</p>	<p><b>【本年度の重点目標】</b>                  (1) 学校経営 小規模特認校としての教育活動の特色化と地域との連携による信頼される学校づくり                  (2) 教育指導 学力向上を目指す少人数授業の究明と学びの自立の確立</p>
---	---

[ 評価 4：大変良い 3：よい 2：あまりよくない 1：よくない ]

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織	教育目標等の周知と協働体制	学校教育目標や重点目標を意識して目的意識をもって取り組む。	3.6	○上級生を中心に、意欲的な活動ができていていると思う。 ○重点目標の達成に向け、職員で協力して取り組んでほしい。	◇研修を通して、学校として「目指す児童像」や児童につけさせたい力について、職員間での共通理解をさらに深める。 ◇中学校との連携を深め、義務教育9カ年を見通した取組の構築を推進する。
		○「気づき、考え、実行する」を合言葉に、主体的な学びとそれを日常の社会生活に生かそうとする力を育てるための取組を推進することができた。			
		主たる担当の校務分掌で、1か月前に提案して積極的にリーダーシップを取る。	2.8	○限られた職員数ではあるが、役割分担をしっかりとされている。 ○コロナ禍で、気を遣うことも多いと思うが、引き続き努めてほしい。	
		○コロナ禍による状況の変動のため、各種提案が直前までできなかったり変更になったりすることが多く、十分な企画・準備等が難しかった。			
運営	教育課程の実施	週案を活用して授業時数を確保し、めあての達成状況を記入することにより、質的管理の推進を図る。	3.7	○休校もあったが、授業はしっかりと行われている。 ○今後も、児童の力をしっかりとつけてほしい。	◇引き続き毎週の週案確認を行い、管理職等による指導助言を充実させる。 ◇達成状況の記入に基づく質的管理(授業自己評価)を推進する。
		○4・5月の休校による授業の遅延への対応もあり、週案による管理は非常に重要となり、各担任等とも適切な作成・活用がなされた。			
		体験活動は「めあて」を明確にし、児童自ら意欲を持って主体的に学ぶ学習活動とする。	3.4	○例年通りにはできないものも多くあったと思うが、活動にはしっかりと取り組まれている。 ○様々な活動を通して、児童にも笑顔が戻ったことは嬉しい。	
		○例年同様の実施ができない活動が多く、企画の際に実施の目的や育てたい力等を再確認しながら、実施方法等の検討を進めた。			
総合所見	○年度当初から「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、各活動等が年間計画通りに行えず、変更・中止等を余儀なくされる事態となったが、全職員の協働によりできる限りの実施ができた。本年度の経験を生かし、更に円滑な校務運営の推進と教育活動の充実に努める。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学力向上	学力向上を目指す授業づくり	「熊小授業の進め方(めあて[児童自ら発表]→見通し→一人学び→友だち学び→まとめ→「わ・が・や」タイム→次時は～)」を徹底し、児童に学び方を身に付けさせる。	3.6	○学力も伸び、成績もよく、教師の努力が感じられる。 今後も引き続き、学力向上に努めてほしい。	◇「めあて」と「まとめ」の整合を徹底する等、授業の工夫改善を推進するとともに、「わ・が・や」タイム(メタ認知的自己評価)についての理解を深め、自己の学びの高まりを自覚できるようにする。
		○1時間の中の学びの流れは定着してきており、児童にも身に付いてきているが、各場面の充実が必要である。			
		丁寧な文字指導(ノート指導、作文指導、ひらがなや漢字の指導等)を行い、児童に身に付けさせる。	2.8	○児童の実態に応じて、わかりやすく丁寧な指導に努めてほしい。	
		○休校による遅れを回復することを第一義としたため、文字指導等に時間を費やすことができず、十分な変容が見られない児童もいる。			
	学ぶ意欲・規範意識の醸成	学習規律を確立させる。(チャイム・聞き方・発表の仕方・姿勢・忘れ物0・筆箱の中身)	3.7	○各児童の個性もあり、全て完璧というのは難しいと思うが、一人ひとりに寄り添って支援を行ってほしい。	◇学習規律のよさと必要性を児童とともに確認し、実践への意欲を高める。 ◇各項目を毎月の生活目標として設定するなどの工夫を通して、さらに児童の意識化を促す。
		○学習規律については、十分に身に付いているが、集中力に難がある児童もあり、継続した取組が必要である。			
		立ち止まったあいさつ、心に響く返事、適切な言葉遣い、後片付け、学校の約束を徹底し、児童の規範意識を醸成する。	3.1	○児童から先に挨拶をしてくれるので、明るく気持ちがよい。 ○日常的な指導を継続してほしい。	
		○日常的に全職員で指導(声かけ)を行い、随時意識化を図っていることで、児童にも「約束を守ることは当然」という意識をもたせることができています。			
	学力的基礎を培う活動	家庭学習定着率90%以上を達成し、書き直しややり直しを徹底させる。	4.0	○家庭学習の内容等についても、児童・教師でしっかり話し合っ、より充実を図ってほしい。	◇家庭学習の効果を見守り一緒に考え、取り組むことの大切さについての理解を深め、個に応じた取組の充実を図る。 ◇「自学」をさらに充実させ、「自分のための学習」という意識を高める。
		○宿題の提出はほぼ100%に近く、書き直し等も休み時間にしっかりと取り組んでいる。今後もより主体的な実施となるよう継続して取り組むことが必要。			
		児童の実態に応じた補充学習により、弱点を克服する。	3.0	○時間を要しても克服できることもある。克服のための工夫に今後も取り組んでほしい。	
		○隙間時間等を活用した日常的な補充は随時行うことができたが、まとまった時間で入念に練習をさせる等の場を充実させる必要がある。			
家庭・地域との連携	読書活動を質的量的に高める。(めざせ〇〇冊・〇〇ページ、おすすめの本、家庭読書)	3.6	○読書量が増えているのは、よい傾向である。 ○後々のためにも、本はたくさん読ませてほしい。	◇児童の委員会活動を活用し、読書を促す取組の企画・実施の充実や工夫等、児童の主体的な取組を活性化させ、読書活動への興味・関心をさらに高める。	
	○会話制限により例年より読書に使える時間が増えたことで、児童が本にふれる機会が増え、読書の楽しさを感じることができるようになってきた。				
	家庭学習頑張りカード保護者コメント90%以上を達成する。	3.6	○保護者への働きかけや協力も大事に、各保護者や家庭と一緒に頑張ってもらってほしい。		
	○カードの記入・提出は、ほぼ習慣付いてきている。取組のねらいや効果についての啓発を通して、さらに保護者の理解を図る必要がある。				
家庭・地域との連携	通信等を通して、保護者・地域に情報を発信する。	3.7	○学校と保護者・地域との連携はよくできている。今後も引き続き関係を深め、連携の充実に努めてほしい。	◇学校の取組における児童の様子を発信するだけでなく、学校として目指しているところを紹介して理解を深めて頂いたり、感想・意見を寄せて頂いたりする工夫を行い、さらに充実を図る。 ◇学校ホームページの充実を図る。	
	○毎週の学級通信、毎月の学校だよりと、各種行事・活動や日頃の児童の様子を紹介し、学校の様子を発信することができた。				

総合所見	○学力向上に向けた各種取組は、教職員の協働のもと一定の成果を上げている。今後も、複式による授業という特殊性を踏まえ、より児童の主体性を育む学習スタイルの改善を推進する。また、保護者・家庭との連携を深め、「学習基盤づくり」の面を更に充実させたい。 ○今後、コミュニティースクールの導入を視野に、地域との連携をさらに充実させていく。
------	---

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
体力向上	運動の習慣化	外遊び等を奨励し、体力アップシートを活用して児童の体力向上を図る。 ○「竹馬週間」や「なわとび週間」を設定し、中休みを中心に全校で屋外運動に取り組むことができたが、年間を通しての取組は推進できなかった。	2.5	○登下校で歩いている児童を見かけるが、元気よく楽しそうに見え、嬉しく思う。 ○これからも体力づくりに努めてほしい。	◇「体力アップシート」の保管方法を工夫するなど活用しやすい環境を整え、日常的に自身の取組状況を確認し易くすることで、さらに運動への関心を高める。
	基本的な生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん・少ゲーム」の取組を推進する手立てを講じる。 ○長期休業明けに実施期間を設定し、保護者の協力のもと取り組んだが、時間のコントロール等で、なかなか自立的な取組にならない児童もあった。	3.3	○学校だけでは難しい課題なので、保護者・家庭との協力により、充実してほしい。	◇協力依頼文書の工夫等を通して、事前の説明を充実させ、保護者との連携をより強め、家庭ぐるみで協力を得られるように努める。 ◇児童の達成意欲を喚起するような手立てを工夫する。
総合所見	○今年度、コロナ禍で十分取り組めなかった「感染症対策のもとでの体力づくり」にも、次年度は積極的に取り組む必要がある。基本的な生活習慣についても、児童一人ひとりがしっかりと確立できるよう、PTAとも連携して保護者・家庭の理解もさらに深め、取組の推進を図る。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	自己評価を踏まえた改善策
豊かな心の育成	よりよい人間関係の構築	自ら範を示し、日常の挨拶や返事、丁寧な言葉遣いについて指導し、児童相互・児童と教師の好ましい人間関係を構築する。 ○各職員による日常的な指導と合わせて、全校による「いいとこ見つけ」等の取組を通して、好ましい人間関係が構築されている。	3.8	○児童同士は、相手を大切にしていると感じられ、安心している。 ○今後も少人数ならではの環境の中で、よりよい関係を育んでほしい。	◇学校として目指す姿を児童と教師で再確認し、指導と実践の整合を図るとともに、日常的なコミュニケーションのさらなる充実にも努め、相互の信頼をより高める。
	道徳教育の充実	特別の教科道徳の時間において教科書を活用し、指導と評価を充実させる。 ○年間計画に基づき、各価値項目に偏りがないように指導を進めるとともに、児童の感想やふり返りをもとに、学習の成果を見取ることができている。	3.5	○今後も、引き続き取り組みの充実を図ってほしい。	◇より児童が主体的に考え表現する道徳の時間となるように、各時間の主眼や指導方法について教材研究を深めるとともに、児童に日常生活とのつながりを意識させ、実践意欲を醸成する。
	いじめ防止	いじめ防止、早期発見・対処について常に気を配り取り組む。 ○児童の様相に常に目を配るとともに、積極的な生徒指導を心がけることで、児童間のトラブルも問題に発展する前に対処することができている。	4.0	○相手の気持ちを大切にできることが大事。気を抜かず、取組をさらに充実させてほしい。	◇丁寧な児童の見取りを継続するとともに、各種アンケートや調査の結果の分析と考察を入念に行い、日常の積極的な生徒指導の充実を生かす。
総合所見	○自分・まわりの友だちを大切にできる気持ちは十分育っているが、場面によっては自己中心的な言動を示す場合も見られる。次年度は、心のより豊かな成長を目指して、さらなる道徳教育の充実や体験活動の効果的活用を推進する。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	自己評価を踏まえた改善策
主題研修等	校内研究の充実	国語科複式・少人数授業に係る主題研究を積極的に推進する。 ○指導主事を招聘しての研究授業を年間3回(各学級1回ずつ)実施し、よりよい複式授業のあり方を中心に授業研究を行うことができた。	3.7	○研修を通して、教師が熱心に学んでおり、とてもよいと思う。	◇本校としての、児童の「主体的・対話的で深い学び」を導く学習指導の在り方の究明を柱に、引き続き研究に取り組む。
	一般研修の活性化	積極的な校外研修への参加や文献による資料収集を行い日常の教育活動に生かす。 ○コロナ禍により各種研修会等が中止になり、例年のような校外研修が行えず、校内での還流も十分にできなかった。	2.2	○本年度は、コロナ禍のため致し方ないところもあったと思う。 ○今後、研修の仕方の工夫も必要であろう。	◇外部から提供された資料等を活用した研修等を設定するとともに、職員相互による学び合いの場を積極的に位置づけ、学ぶ機会を充実させる。
総合所見	○コロナ禍により、1学期に授業研究を十分に行うことができず、スケジュールが窮屈になってしまったが、指導主事の指導の下、全学級での検証授業等を通して、研究主題についての研究に取り組むことができた。次年度も、本年度の成果・課題を踏まえながら、積極的に研修を深めていく。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	自己評価を踏まえた改善策
環境構成等	安心・安全の確保	児童の安全確保・安全管理に努め、緊急対応マニュアルを熟知し、実働できるようにする。 ○年度当初にマニュアルの確認、避難経路の確認等を行うなど、安全への意識付けを図るとともに、毎月安全点検を実施し、事故等なく過ごせた。	3.5	○何より安全が第一。 ○自動車や動物(猪、鹿)についても十分留意してほしい。	◇野生動物による危険についても再確認し、注意喚起を図る。 ◇本年度取り組んできた感染症対策等についても整理・共通理解し、職員間で共有できるようにする。
	学びを支援する環境整備	教室や廊下の掲示物や作品には、学習の振り返りや達成感、発展を促す工夫を行う。 ○学習の成果物等を随時掲示・展示することで、児童も互いの作品を見合い、意見交流をしながら、達成感を味わうことができている。	3.5	○作品等が適切に展示され、成就感等が感じられるように配慮されている。 ○熊ヶ畑小学校の児童は、才能があると思う。楽しみにしている。今後もしっかり取り組ませてほしい。	◇成果物の展示の際に、本人に対しより深い達成感を味わわせられるよう工夫を図るとともに、周囲の児童への啓発にも資するようにする。
総合所見	○児童の安全が確保され、安心して通える・学べる学校づくりのため、今後も継続して危険の想定や危険個所の点検・修繕に取り組む。また、児童の学習への意欲を高め、よりよい学びの促進のための環境整備(掲示等の工夫・改善)にも努める。				